

第3回会議（令和5年7月27日）の協議資料

第2回会議でグループ討議によりいただいた御意見について、「羽生市立学校適正規模・適正配置に関する基本方針（令和4年3月策定）」の項目ごとに分類いたしました。

第3回会議では、第2回会議でいただいた御意見をもとに、基本方針の確認と意見交換を行います。

1 羽生市立小中学校適正規模・適正配置に関する基本方針策定の背景と目的について（基本方針1ページ）

【いただいた御意見】

- 前回の再編成がどうしてダメになったかを考慮しながら進めたい。
- 前回の審議会で作成した案が具体的にどういう問題があり廃案となったか説明してほしい。
- 子どもの減少が予想される中で、子どもたちにとって一番良い教育環境はどのようなものかを考えて進めていくことが大事である。

2 適正規模・適正配置の基本的な考え方について

(1) 望ましい学級数の維持（基本方針8ページ）

【いただいた御意見】

- なぜ今の段階で2クラスなければならないのか疑問がある。もう少し小さな学校もある。
- 将来の望ましい学級数の維持について、前回の案では数を均等化させていくべきという考えがあったようだが、均等化させる必要はあるのか。クラス替えができるのであればいいのではないか
- クラス替えが可能な規模については賛成だが、人数を均等化する必要はない。
- 小規模校であれば1年生から6年生までクラス替えがなく、仲の良い家族のような関係で6年生までという場合が多い。しかし、単学級だと、中学校で複数学級になったときの子どもたちのハードルが上がる。(いわゆる中一ギャップ)
- 望ましい学級数の維持は、子どもだけではなく、先生方にとっても必要なことで、余裕のある教育を行っていくには必要である。
- 小規模、大規模は問題ではなく、保護者、子どもたちからすると、良い先生に教わることができるのが一番いい。先生の待遇や働き方も考慮して、良い先生に教わることができる地域づくりも考えてほしい。
- 先生方にとって働きやすい学校環境になっていくことが保護者としても良いと考える。保護者としては、学校の編成が変わっても、それに対応していこうという考えが基本スタンスである。

(2) 小中一貫教育の推進及び義務教育学校の設置 (基本方針 8 ページ)

【いただいた御意見】

- 将来的に小学校と中学校が一緒になることを考えれば、10年後を見据えて新しい学校を作ってはどうか。引越しをするときに古い学校には行きたくない、どうせ行くなら新しい学校に行きたい。
- 市の方針では今ある学校を使うとあり、新しい学校は難しいところであるが、中学校と一体でやるのであれば、そういった考えは捨てて、新しい学校・学区を作っていけばいいのではないか。
- 中学校区に義務教育学校、小中一貫校を考えるのであれば、今の中学校に小学校1年生から通うことを考え直さないといけない。
- 小中一貫校については、将来的に子どもが減ってしまうと3校でなく2校になることも考えられる。
- 将来的に中学校区は3つではなく、2つあるいは1つということも考える必要がある。

(3) 学校施設の集約 (基本方針 10 ページ)

【いただいた御意見】

- 予算の面で、合併するとどのくらい変わってくるのか情報があるといい。

3 適正規模・適正配置を進めるにあたっての留意点 (基本方針 11 ページ)

【いただいた御意見】

- 小学校が再編成となるなら、子どもたちの安全を考えスクールバスを出してもらいたい。真っ暗な中帰る子どものことを考えると、中学校でもスクールバスが必要といった安全安心面の対応が必要である。
- 例えば、令和10年に再編成が決まったとした場合、その前から学校同士の交流活動を通じて、子ども同士が親しめる場を設けてもらいたい。

4 具体的な適正規模・適正配置の計画 (基本方針 12 ページ)

【いただいた御意見】

- 新郷第一小を残し、岩瀬小と川俣小の一部を入れる。新郷第二小を岩瀬小に入れる。それでも対応できない地域は個別に対応する。
- 新郷地区としては、中学校区の変更は反対であり、小学校は残せるなら残したい。
- 再編成の際、学区の境目にいる子どもたちは、是非選択ができるようにしてほしい。
- 小学校の再編成では元々市が提案した方針でも問題はないが、選択できる地域をある程度増やし、自由に選べるのがよい。